

平成25年度
地域づくり総務大臣表彰

受賞者の概要

平成26年1月7日

大 賞

藤井 絢子【滋賀県守山市】	2
---------------	---

団体表彰

白神マタギ舎【青森県西目屋村】	3
Misawaアートプロジェクト実行委員会【青森県三沢市】	3
特定非営利活動法人 体験村・たのはたネットワーク【岩手県田野畑村】	4
あじ朗志組【宮城県石巻市】	4
特定非営利活動法人 まちづくりNPO新町なみえ【福島県二本松市】	5
筑見区自治会【茨城県阿見町】	5
東京都公衆浴場業生活衛生同業組合江戸川支部【東京都江戸川区】	6
特定非営利活動団体 全日本製造業コマ大戦協会【神奈川県横浜市】	6
公益財団法人 雪だるま財団【新潟県上越市】	7
特定非営利活動法人 多摩源流こすげ【山梨県小菅村】	7
特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ【長野県飯山市】	8
特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク【岐阜県飛騨市】	8
特定非営利活動法人 いんしゅう鹿野まちづくり協議会【鳥取県鳥取市】	9
坂本グリーンツーリズム運営委員会【徳島県勝浦町】	9
企画・どく礼もん企業組合【高知県中土佐町】	10
特定非営利活動法人 循環生活研究所【福岡県福岡市】	10
つきしろ自治会【沖縄県南城】	11

地方自治体表彰

北海道池田町	12
富山県南砺市	12
長野県北相木村	13
京都府亀岡市	13

個人表彰

大野 達弘【福島県二本松市】	14
桐谷 エリザベス【東京都台東区】	14
古川 康造【香川県高松市】	15

試験研究機関表彰

山形県農業総合研究センター 水田農業試験場	16
新潟県醸造試験場	16
香川県農業試験場	17

藤井 絢子

滋賀県守山市

概 要

NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク代表。

1970年代後半から、富栄養化する琵琶湖の水環境再生に向けた”せっけん運動”の担い手として県内から全国、アジア諸国に伝える伝道師的役割を果たす。

その後、滋賀県愛東町（現東近江市）において、ナタネを活かした新たな資源循環サイクル、「愛東イエロー菜の花エコプロジェクト」を開始する。休耕田や転作田で菜の花を栽培、ナタネ油は家庭等で利用、油かすは肥料や飼料として活用、廃食油は回収しせっけんやBDFにリサイクルされ、再び地域で利用されるというその取り組みは、環境問題のみならず、耕作放棄地の利活用や菜の花の観光資源としての活用等様々な効果が期待されている。

この取り組みは共感を呼び、「菜の花プロジェクト」として全国に広がっている。

また、2011年3月11日の東日本大震災以降は、被災地での取り組みの展開にも力を注いでいる。



評価された点

- ・環境が悪化していた琵琶湖を蘇生させることに貢献するとともにバイオマスエネルギーの産地として有名にすることに貢献。
- ・琵琶湖の水質改善で活躍したことにとどまらず、「菜の花プロジェクト」など、様々な活動に発展させた行動力を高く評価。
- ・日本の環境行政に大いに影響を与えた人物。
- ・藤井氏の活動は、先進性・独自性等の審査基準のすべてに突出しており、効果も絶大である。
- ・長年にわたり、水環境再生の運動に関わるとともに、次々とユニークで先進的な運動を展開し、とりわけ「菜の花エコプロジェクト」を全国的に広めた点が評価できる。
- ・各種受賞歴が示すとおり、全国的な広がりや、様々な波及効果を継続的に生み出しており、その価値は明らかに高い。
- ・環境を切り口とした長年の地道な活動は評価に値する。菜の花プロジェクトは全国にひろがっており、先駆的なモデルづくりは藤井氏の貢献によるものである。
- ・環境問題に積極的に取組み、菜の花プロジェクトは高く評価できる。



白神マタギ舎

青森県西目屋村

概要

白神山地の伝統的な生活文化とその基盤となる自然を保存・伝承することを目的として平成12年に設立。現在は、エコツアーガイドとして活動。白神山地に今でも残る「人と自然の調和の伝統」を伝え、マタギ小屋への宿泊コースや沢歩き・奥山体験などの一般のツアーでは体験できない取り組みを行っている。



評価された点

- ・「マタギの文化」と結びつけたオリジナリティのあるエコツアーを持続可能な形で継続していることを評価。
- ・世界遺産の登録は、得てして保護優先になりがちである。「白神マタギ舎」は、宿泊や奥山体験などの新たな活用によって、遺産である伝統的な生活文化や基盤となる自然を発展的に継承しようとする、ユニークでかつ重要な試みである。



Misawaアートプロジェクト実行委員会

青森県三沢市

概要

家族の個人化や子供の減少、地域経済の低迷などにより、人々の“つながり”が弱まっている三沢において、地域に新しい“つながり”を生み出しながら地域の活性化を図ることを目的に設立。

シャッター街となった中心市街地の空き店舗を拠点に、地域資源を利用しながら子供や大人達に心の交流が生まれるような活動を、アートの視点を活用して取り組んでいる。



評価された点

- ・空き店舗に悩む中心市街地、これは全国共通の地方の抱える課題。子供達によるにぎわいづくりをきっかけに、まずは「まちなかの思い出」を共有する仕掛け、それを支える親世代、そして商店主たち。基地の街「三沢」とは違う「故郷づくり」、「思い出づくり」を市民パトロンレーで実現し、他地域への「地域づくり」の方策の例としても評価できる。
- ・「こどもの視点」を生かしたユニークな取組の数々を高く評価。



概要

田野畑村の観光振興計画の推進母体として、平成20年1月に発足。サップ船アドベンチャーズや津波語り部ガイドなど、大規模施設に頼らない、その土地の生活様式や産業・自然を体験する体験型の観光を提供し、観光客の域内消費や都市農村交流による地域活性化に寄与する取組を行っている。

評価された点

- ・体験型・滞在型観光プログラムの成功事例。村、商工会、農協、漁協、森林組合、教育委員会、各種事業者が、実質的に連携しているのは貴重である。震災後は、防災教育プログラムも導入し、交流が活発化している。
- ・「番屋」を活用した、あたりまえの漁村の風景を資源として活用させ、観光を図る等、地域づくりとしての活動も高い評価を築いていた地域である。震災後の復興についても、それまでの「人」のネットワークが発揮され、みごとにツーリズムと暮らしの文化を形成しておられ、高く評価する。
- ・小さな規模のところであるが、大型施設ではなく、地域を巻き込んだ取組を展開しているところが評価される。



あじ朗志組

宮城県石巻市

概要

人口流出が続いている網地島の現状を変えようと、網地浜集落の高齢者5名が結成し、島おこしの活動を開始。島外のボランティアの協力を得ながら、コミュニティの維持を目的とし島内で様々な作業を行い、交流を深めた。平成19年度から、虐待に苦しんだ児童養護施設の子どもたちを島に招待する「網地島ふるさと楽好」を始めている。

評価された点

- ・島外のボランティアと連携し、施設の子どもたちとの交流を果たし、過疎の島に希望をもたらしている。設立時と比較して、着実に会員が増えており、高齢化した過疎集落の取り組みのモデルとなる事例。
- ・子供が一人もいない限界集落において、高齢者の生き甲斐とも言える事業を生み出していることを評価。
- ・長続きする小さな活動の好事例。補助を当てにせず、自らの意思で活動を続けている、島の皆さんに敬意を表したい。
- ・限界集落の高齢者と児童養護施設の子どもたちという、意外な組み合わせで活性化につなげたことを評価。
- ・若い世代の参加（島外のボランティア）児童養護施設など子どもたちのための活動。少ない予算で自立的運営。
- ・限界集落から立ち上がりふるさと楽好を設立し、委託されたものではなく、小規模だが高齢者自らが決心して取り組んでいるところが評価される。



概要

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、全町避難で全国に離散した町民の絆を繋ぎ、ふるさと浪江町の復興をめざし、平成23年に設立。失われた絆の回復に努め、二本松市内や福島市の仮設住宅で盆踊りを開催したり、各地で交流会を開催するなど、浪江町民のために活発な活動を展開している。



評価された点

- ・避難生活を送る町民を元気づける活動であると共に、町外者からの支援のプラットフォーム機能も果たしている。
- ・分散する地域のまとめ役となっている。
- ・離散した町民の絆を保つことを目的とした先進的な取り組みとして、また自治体間の連携の事例としても評価できる。
- ・バラバラとなり、故郷を離れた人々の「心」を繋ぐ活動、受入地域の人々の再生活動、様々な困難の中に道筋づくりを実践している点を敬服している。また、この取り組みは小さな一歩一歩の地道な地域づくりではあるが、都市課題に不可欠とされる人を繋げる「一歩」ずつの地域づくりへの示唆を含まれている事例でもありと思われる。



筑見区自治会

概要

昭和40年代に開発が進められた新興住宅街の住民の間において自主的に自治会が組織された。年齢構成の偏りによって懸念される将来の超高齢化社会に備え、住民がボランティアで高齢者を送迎するシステムなど住民同士の支え合いの取り組みを行っている。



評価された点

- ・住民主導で自治会が設立され、高齢者送迎システムや健康維持活動、安否確認システム、つくみ支え合いなどの地域を支え合うさまざまな取り組みが実施されていて成果をあげている。自治会のお手本ともなるべき取り組み。
- ・住民間の相互扶助体制で大きな成果をあげている。



概 要

将来を見据えた長寿・健康施策として江戸川区が導入した、自己負担は伴うが何度でも利用可能な「健康長寿協力湯」制度に協力するほか、高齢者の外出のきっかけとして銭湯を会場に東京ニューヨーク(入浴)寄席を開催。高齢者をはじめとした区民に健康保持やコミュニティの拠点、交流の場として銭湯を利用してもらうよう取り組んでいる。



評価された点

- ・減少一方の公衆浴場を地域発展の力に変えるとともに大都市の高齢社会の拠点として活用している活動は全国の大都市の参考になる。
- ・小・中学生のボランティアによる「お背中流し隊」の活動は、ユニーク。健康長寿協力湯事業そのものが、13年継続できているのも、評価できる。
- ・日本独自の「銭湯文化」の保存、発展に貢献すると共に、コミュニティー機能を強化する事につながる「お背中流し隊」など世代を超えた事業を評価。



特定非営利活動団体 全日本製造業コマ大戦協会

神奈川県横浜市

概 要

「技は心と共にあり」を合い言葉に、製造業に関わる経営者が集う集団である「心技隊」隊長、緑川賢司氏の呼びかけにより、平成12年に全国の中小製造業の経営者らが集まり発足。中小企業、製造業を盛り上げ、更に我が国を盛り上げることを目的に、中小製造業者が自社の技術で作成したケンカゴマを持ち寄り対戦する、「全日本製造業コマ大戦」を開催している。



評価された点

- ・ものづくり日本の基礎となっている中小の製造業の高度な技術を娯楽を伴いながら発展させていることを評価。
- ・コマをテーマにしたイベント開催と中小企業活性化の取り組みは、ユニーク。世界大会も予定されており、グローバルな活動も期待される。
- ・世界の製造現場に刺激を与え、中小企業を盛り上げたことを高く評価。



概 要

地域住民の心の活性化に寄与することを目的に平成2年に設立。快適で楽しい雪国の生活のあり方を提案するとともに、雪国と非雪国との交流の促進を図るため、自然エネルギーの推進、ふるさと交流、情報発信の3つの事業を連携させた活動を通じて、地域資源の価値を高め、地域を盛りたてる活動を行っている。



評価された点

- ・地域資源を生かしたユニークな取組で地域を活性化させている。
- ・地域の悩みを逆手にとった発想力と、まさに「温故知新」といった取り組みを評価。
- ・長年にわたる雪冷熱エネルギー利活用の研究と実践とともに、雪国としての地域特性を活かしたユニークな取り組みが評価できる。
- ・エネルギーの利活用は地域にとっての大きな課題であり、その解決策に積極的に取り組んでいることが評価される。地域資源を生かした取り組みがいい。



特定非営利活動法人 多摩源流こすげ

山梨県小菅村

概 要

村の財産である「ひと・もの・しげん」に着目し、多摩川流域住民との交流を中心に、源流域の豊かな自然や文化の保全と、多摩川流域の地域振興に資する取組を実施。多摩川流域の企業、大学、自治体等との連携を柱として、団体設立当初から変わらず、地域に根ざした取組を続け、小菅村の知名度向上に貢献している。

評価された点

- ・源流域と下流域の交流の好事例。企業、行政、大学などの連携手法は、他流域のモデルとなる。
- ・川の流域に着目した連携であり、成果が生まれている。
- ・「多摩源流こすげ」は、源流域の自然保護と資源を活用した特産品づくり、流れに沿って発展した川上と川下との交流や村ツアー参加者による交流、子ども達の体験から市民までの活動など、産学官連携により英知を結集した住民主体の取り組みであり、体系的な企画は見事である。
- ・若い世代の参加者が多い。上下流の交流と理解促進。大学との連携。（特に県境越え）
- ・ひと、もの、しげんを有効的に活用しており、企業、大学、NPO法人等の連携がうまくいっている。



概要

新潟・長野の県境、関田山脈の歴史ある旧道・古道の復元と、各市町村の休憩・避難施設の管理活用、ロングトレイル（長距離自然道）の整備を通して、両県の地域連携を図り、自然・歴史といった地域資源を再認識し、自然を求めてトレイルを訪れる人々との交流を通じて、地域の活性化、観光振興に寄与している。



評価された点

- ・8市町村の良好な連携によって実現しているプロジェクト。トレイルの整備は年々進み、海外からも注目されている。今後の発展も期待される。
- ・旧道、古道の復元。住民を巻き込んだロングトレイルの取組を評価。



概要

平成14年10月「交流人口の増加による地域の活性化・町づくり」を目的として設立。平成18年神岡鉄道廃線を機に、残された鉄軌道を保存・活用し、地元住民の想いと技術が一体となった「廃線エコプロジェクト」ともいえる事業として、鉄軌道上を自転車で走行するというまったく斬新な「レールマウンテンバイク」を開始。



評価された点

- ・鉄道ブームを遺跡保全という形ではなく新しい利用方法によって地域で取り組んでいることを評価。
- ・廃線跡を活用したユニークな事例。自主自立の運営体制も、評価できる。
- ・廃線の鉄軌道を活用したユニークな取り組みで、利用人数の伸びに見られる地域活性化の効果も評価できる。
- ・鉄軌道上をバイクで走るといった斬新な企画で全国に展開できる。
- ・廃線エコプロジェクトは、廃線を持つ他地域でも応用可能。発想が面白い。



概要

地域づくりに意欲を持つ住民有志で平成13年に設立。これまで藍染め暖簾や屋号瓦塔による軒先演出をはじめ、いんしゅう鹿野盆踊り、虚無僧行脚等の街なみに似合うイベントを開催。空き家活用による拠点や食事処の整備を手掛けるほか、「鹿野まちづくり合宿」などの鹿野が舞台となるフォーラムも開催している。



評価された点

- ・12年間着実に活動を継続しているとともに、「神山・尾道・鹿野」プロジェクトなど他県の団体との連携を実現する積極的な活動を評価。
- ・地域資源を活かした長年にわたるユニークな取り組みとともに、着実に成果をあげてきている点が評価できる。
- ・地域のまとまりで息深い活動を継続している点、空き家活用をしている点を評価。



坂本グリーンツーリズム運営委員会

概要

地元住民が主体となり平成13年に設立。廃校を活用した農村体験宿泊施設「ふれあいの里さかもと」を管理運営し、10年間以上に渡り、「人と人のふれあい」を大切にしながら、また、多くの人を巻き込みながら、農村体験やひな祭りイベント、美しい村づくり、農業の担い手育成等、多彩な事業を展開し、地域の元気の創造に貢献している。



評価された点

- ・10年以上にわたり、坂本小学校廃校跡地をベースとして農村体験宿泊施設「ふれあいの里さかもと」(公設民営)を運営。地域の人々が先生となり、農産物の栽培やトレッキング、加工品づくりなどの農村体験事業が活発に展開されている。その結果、町の人口の2倍以上の年間12,000人の人々が利用し、地域の自信、活性化につながっている。
- ・廃校活用の事例は多くあるが、比較的連携・協働がうまくいっているように思われる。
- ・活動の継続性、発展性が評価できるとともに、地域経済の活性化への効果大きい。
- ・10年にわたる取り組みは、グリーンツーリズムとしても草創期からの取り組みで、評価に値する。何よりも財政の自立度が高く、モデル性は高い。是非、表彰をしたい。
- ・地元住民が主体でいろんなイベントを仕掛けており、地域全体の活性化につながっている。



概要

商工会メンバー4名が出資し、平成19年に設立。地元産品をPRし、売り出すことによって久礼のまちを元気にしていること、地元の名産品をセットにして、インターネット等による通信販売を開始。その後、地元の食材にこだわった加工商品の開発と販売等しながら雇用の創出、交流人口の拡大など地域の活性化に尽力している。



評価された点

- ・小さく始まった活動が、地場産品の商品開発、商店街の活性化、交流人口拡大と着実にステップアップしている。人材育成や地域連携への積極的な取り組みも評価できる。
- ・「漁師町」の資源を生かしたユニークな地域活性化の取り組みを評価。
- ・かつての漁村特有の元気な商店街の賑わいを取り戻すべく、様々な「なりわい」を復活させている点。また、独特な「食文化」を基本として、現代の食卓へ定着させるメニューづくりとアイテム探しを各々の業で丁寧に続けておられ、何より圏内の地元客のファンが支えていて、それに惹かれて「観光客がやって来る」安定した観光戦略地域づくりである点を評価できる。



特定非営利活動法人 循環生活研究所

概要

家庭内での循環生活を進めるべく別々に課題に取り組んでいた「やかまし村青年団」等のメンバーが集まり、平成15年より活動を開始。海藻アオサや生ごみの堆肥化をはじめ、暮らしに必要なものを地域内で循環させることで得られる、楽しくて、安全で、創造的な生活を「循環生活」と定義し、市民に対して普及・啓発活動を行っている。



評価された点

- ・福岡の立地を生かして、韓国、中国との国際交流を行っている。
- ・市民が手軽に参加できる仕掛けを多く用意し、多彩な住民達を巻き込んでいることを評価。
- ・県内を対象としていてやや大きな取り組みであるが、どこにでもある地域資源を活用して循環型社会という視点からみても評価できる。



概 要

つきしろ自治会は、コミュニティを形成するうえで核となる場所や伝統行事などがなく、30数年もの時間をかけて、様々な取組を地域ぐるみで実践し、住民同士の絆を深めながら新たなコミュニティを形成してきた。近年は、自治会主体で取り組んだ健康づくりを軸とした各種イベント等で、市民、行政、事業者等と積極的な連携を図っている。



評価された点

- ・健康づくり活動をベースに、今までコミュニティが形成されていなかった新興住宅地に、時間をかけてつながりをつくり、次々と自主的な活動を生み出している。今では、つきしろモデルとしてコミュニティヘルスの成功事例として注目されている。
- ・長年の取組による地域コミュニティの形成は表彰に値します。
- ・地道な健康づくり活動を通じて特定健診受診率を飛躍的に高めたことを評価。
- ・「自分達で出来ることは、自分達で…」これは、これから全ての「地域づくり」にとってのキーワードとなっていく時代。住民主導による、様々な地域活動解決への対応活動は、住民との話し合い、行政との話し合いの「協働」。更に加えて地域事業者の「協力」も加わった、ビジネスモデルにも広がっている。「地域企業事業・企業体」の先進例でもある。



北海道池田町

概要

昭和31年、地方財政再建特別措置法による「財政再建団体」の指定を受け、その苦境から脱却するために昭和38年、他の自治体では行っていなかった「ワイン造り」をはじめ。ワインを核としたユニークなまちづくりが注目され、十勝ワインは、国内初の自治体ワイナリーとして確固たる地位を築き、全国の一村一品運動の先駆けともなった。

評価された点

- ・地域づくりの代表的看板であります。それ故に、次のステージとしての期待も大きく、地域ブランドづくりによる雇用確保、人口定住、更に「食」文化の創造として未来へつなげる新産業創造の「地方公営・地方連携・経営」のモデルとして大きな次へのステップを期待している。
- ・ワインをベースとした長年の地域づくりには、国内ワインブームの基礎をつくったともいえる。現在、国内に多くのワイナリーが存在し、観光とセットでまちづくりが行われていることを考えれば、評価に値する。
- ・ワイナリーが独自品種の開発を行い、ブドウ栽培の普及に努めるという希有な事例として、世界的にも知られるこのケースがこれ迄受賞歴がないというのが不思議な位だ。



富山県南砺市

概要

世界遺産である五箇山(ごかやま)合掌造り集落(相倉(あいのくら)合掌造り集落、菅沼(すがぬま)合掌造り集落)において、1年を通じて合掌造り家屋のライトアップを行う。合掌造り家屋のたたずまいを照らし出すとともに、幻想的な雰囲気の中で民謡の披露など両集落が独自の取組みを行っている。これらの取組みが、継続的に行われ、観光客の増加につながっている。

評価された点

- ・白川郷に隠れがちな五箇山を守り、継続したPRの取組みは、評価できる。
- ・両集落は住民が主体的に合掌造り家屋のまちなみを保全・維持している。ライトアップだけでなく取組みも評価したい。
- ・世界遺産登録地の中でも、小規模なエリアのため、「見学者と生活との調和」、「高齢者が支える世界遺産」など様々な課題を持っている。そのような中で、地域住民によるおもてなしとして、自らの手で四季を通じて合掌造り集落のライトアップが実践されており、集落住民が地域の暮らしを支え、集落の次世代へ伝えたい美しさを、自らが手を結び合わせながら、情報発信している一つの形として象徴されている。これからもより多くの方々を知っていただきたい活動の一つである。



長野県北相木村

概要

村では都市との交流を積極的に進める中で、特に人と人との交流に重点を置き、名峰八ヶ岳を望む豊かな自然環境と昔ながらの素朴な村の良さを活かし、関東大都市圏を中心に山村留学生として小学校児童を受け入れる山村留学事業と、それを支える地域おこし協力隊の導入を行っている。



評価された点

- ・ 20年以上の歴史がある山村留学の継続に、「地域おこし協力隊事業」を活用し、成功した事例。山村留学の卒業生が定住するなど、小さくとも着実に成果を出している取り組み。
- ・ 高齢化と過疎化という現状に直面する中で、山村留学による交流で地域が元気になっている。



京都府亀岡市

概要

第4次亀岡市総合計画の実現に向け、地域における問題・課題、町のあるべき姿（目標）をワークショップで抽出し、目標達成に向けて住民自らができる行動計画の策定につなげている。WHO協働センターより国内初のセーフコミュニティの認証を取得したことなどにより、住民の潜在的な能力や資源を引き出し、地域のNPOなどを巻き込み、住民参加型の地域づくりを進めている。



評価された点

- ・ 大学と連携をしながら、総合的にセーフコミュニティ、カーボンマイナスプロジェクト推進などに邁進している。その結果、地域の人々の主体性が芽生え、協働も実現している。
- ・ 周辺大学と連携した「亀岡カーボンマイナスプロジェクト」は、成果への期待も大きく、他地域への展開の可能性も高い。
- ・ WHOのセーフコミュニティ認証を受けた我が国で最初の地域であり、その取り組みをベースに地域力を結集させており、評価に値する。また、炭素貯留農法へのまちぐるみでの取り組みも評価に値する。



大野 達弘

福島県二本松市

概要

NPO法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会理事長。合併により中心地から取り残される危機感を抱いた9名の地域の有志が、「ゆうきの里づくり」という方向性を見だし、「有機農業・有機的な人間関係・挑戦する勇気」の意味を込めた「ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」を平成17年に発足させる。「道の駅ふくしま東和」の指定管理者となり、「ゆうきの里づくり」の拠点として、地域に根ざし、多様な活動を展開している。



評価された点

- ・震災後の風評被害にも負けず、有機農業を核とした地域再生の取り組みで、成果をあげていることを評価。
- ・これまでも東和地域の好循環システムの取り組みは広く知られてきている。震災後は、それまでの高齢化、過疎化に伴う少量生産の課題や情報不足にも積極的に正面から取り組み、**「外から若者から…」のパワーを強化して、活力ある地域づくりを推進している。**



桐谷 エリザベス

東京都台東区

概要

ジャーナリスト。アメリカ合衆国出身。台東区谷中に居住している経験から、日本人が気づかない日本の魅力、外国人から見た日本の魅力を海外に発信。都市から消えかけた地域活動の復活に取り組むとともに、下町人気を牽引し、国内外において、情報発信を積み重ねることにより、国際観光振興に大きく貢献した。



評価された点

- ・長年に渡り日本の文化や暮らしのあり方を、国内外に情報発信を続け、地域住民からも厚い信頼を得ている。
- ・国際放送の報道及び公共放送での英語教育の世界でも様々な活動を通じ、日本の文化を世界に発信させてきた。そのみならず、下町に暮らしながら、「日本の暮らし」への愛着と日本人が忘れかけ始めていた足元の文化への気づきを引き出す力を発揮されてきた。下町文化の情報発信とブームの火付け役として大きな役割を果たした。外国人の宿で有名な澤の屋さんをはじめ、町の居酒屋・住民等地域の多くの方々の手足となって、永年活動された働きを評価したい。
- ・外国人として都市の伝統文化を紹介するとともに、それを地域の活動に連結させる発信力を評価。



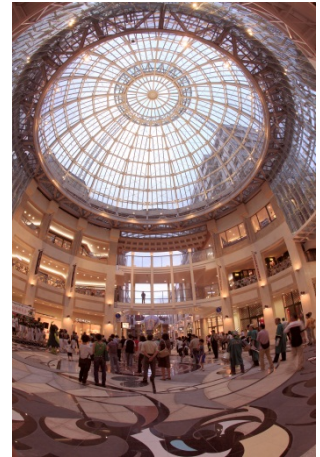
概要

高松丸亀町商店街振興組合理事長。中心市街地・商店街の活性化を図るため、再開発計画を策定し、平成10年に高松丸亀町まちづくり株式会社（第3セクター）を設立。人が生活する活気のある街に戻すことを目的とし、定期借地権を活用したマンション開発や医療モールの開設などの総合的なまちづくりに、中心となり、率先して取り組んでいる。



評価された点

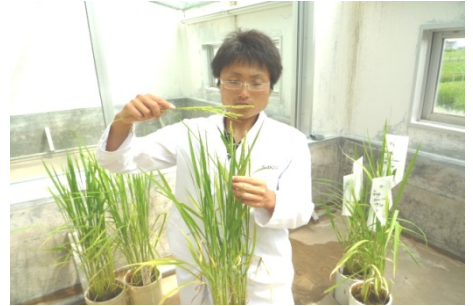
- ・丸亀町商店街は、中心商店街再生の事例として有名であり、古川氏は理事長として尽力してこられたことは多くの人々に知られている。空き店舗率、通行量などの指標が劇的に改善し、商店街は賑わいを取り戻し、成果が顕著である。
- ・商店街の再生という困難な課題に長年取り組み、全国唯一の事例を作り上げた。
- ・丸亀町はまちづくり株式会社によって活気ある街になってきた。
- ・既に全国的に有名な取組ではあるが、定期借地権を活用した開発は画期的で20年以上に渡り、活動を継続している点も高く評価。



山形県農業総合研究センター 水田農業試験場

概要

大正9年に山形県立農事試験場庄内分場として創立され、庄内地域の稲作研究機関として、一貫して地元の生産現場に密着した研究課題に取り組んできた。地元（鶴岡市）の有志が「つや姫誕生のまち活性化の会」を結成し、イベントでPRをしたりオリジナル商品の開発に取り組むなど、つや姫の誕生は生産者をはじめ商工業者を巻き込んだ地域活性化の起爆剤となっている



評価された点

- ・庄内地方を日本有数のブランド米産地とすることに貢献。
- ・東北の米づくりを支えており評価に値する。
- ・多様な主体へ影響を与え、地域活性化につながっている点を評価。
- ・長年にわたり、山形県産米の品種改良に取り組み、「つや姫」など、全国的に評価の高い米を生み出すなど、大きな成果をあげてきた点が評価できる。
- ・地域をブランドとした研究開発では、永年の実績があり、庄内を含めて多様性のある地域に寄り添いながらの研究開発が実を結び、先進的な生産の仕組みと流通とのマッチング等、ビジネスモデルとしての数々の成功事例を結実させている点を評価する。



新潟県醸造試験場

概要

昭和5年に開設された全国で唯一の日本酒専門の公立試験研究機関。業界と一体となって新潟県清酒産業の振興に貢献するとともに、同県の伝統文化を次世代へと伝える重要な役割を担っている。酒造りに関わる研究が続けられており、酒造技能者の人材育成等、様々な側面から県内酒造場を支援し、継続的な活動を行っている。



評価された点

- ・新潟県を日本有数（生産量3位）の清酒産地として発展させることに貢献。
- ・推薦された試験研究機関は、例えば、米や小麦の育種栽培において、また酒や焼酎の醸造において、バイオ技術を駆使した試験研究を重ねて地域のブランド品を創造しており、いずれも甲乙つけ難い。そんな中で、新潟県醸造試験場の場合は、これまで酒蔵元が杜氏を抱えノウハウを継承してきたのに対し、「新潟清酒学校」を開催してヒトづくりに取り組んでいる点が評価される。
- ・日本酒専門の公立試験研究機関として、新潟の風土に適した醸造法の研究、酒米開発、人材育成に長く取り組み、新潟県の酒造業の品質向上に果たしてきた点が高く評価できる。
- ・現在「日本酒」の小規模事業者が直面する課題に対して、戦略的な情報発信の要としても大きな役割を果たしている。



概要

さぬきうどんに使用される小麦は外国産が占めていたため、県内の製粉、製麺業者や消費者から、県産小麦を使ったさぬきうどんの商品化が強く求められたことを受けて、栽培しやすく高品質なさぬきうどん用小麦品種「さぬきの夢2000」等の育成に取り組む。現在、香川県では、さぬきうどんが戦略の核のひとつとなっており、県の産業・文化の発展、活性化に大きく貢献している。



評価された点

- ・ さぬきうどんという戦略的な地域資源の原料であるさぬきうどん用小麦品種を育成し、普及にむけた技術的な革新を行っている。さらに、「さぬきの夢」を100%使用したうどんを提供するうどん店を認定し、原材料品種判別技術を開発し、さぬきうどんの展開にも貢献している。
- ・ 国産小麦のさぬきうどんを支えている。
- ・ 「さぬきうどん」という特産品を本当の特産品にしようという真に地域のための取り組みを評価。
- ・ さぬきうどん用の小麦品種の育成に取り組む、県内での小麦作付面積・生産量の増加をもたらした点が高く評価できる。
- ・ さぬきうどんの取組はすごい一言。県として核になって活性化につながっている。高く評価できる。

